

一九五三年十月二十五日  
印刷  
発行



第36卷 第4号

史学・地理学・考古学

鎌倉仏教における「一向専修」と「本地垂迹」

.....黒田俊雄(1)

上代紀年に関する新研究.....笠井倭人(25)

南北戦争後の南部再建政策の展開.....山岸義夫(49)

——ジョンソンを中心として——

マライシア島嶼圏における海上交通の研究.....別枝篤彦(68)

資料紹介

日本外史の清版とフランス訳.....石原道博(82)

書評と紹介

宮下孝吉著：ヨーロッパにおける都市の成立.....牧健二(86)

George Rude: Les ouriers parisiens dans la

Révolution français.....前川貞次郎(89)

李朝実録 第一冊.....小葉田淳(92)

学界消息

史学研究会

京都大学文学部内

京都大学文学部東洋史研究室  
東洋史研究会

日本学術会議第一部議員  
候補者 (全国区)

(東洋史)  
京大教授  
人文科学研究所所長

貝塚茂樹

(日本史)  
京大教授  
文学博士

小葉田淳

今回日本学術会議々員改選に際し本会の評議員会に於ては右二氏を公認候補として推薦することになりましたから  
会員各位におかれましては何卒よろしく御協力下さるよう  
お願いいたします。

史学研究会

日本文学研究入門

高木市之助監修 現代における 入門書の最高峰!!

新村出 自分自身すらこの入門書によつて更に直したい気になす。初学入門の生徒にすすめたい気がおこらざるを得ない

石母田正 これらの学者の指導により私も祖国文学を探究する立場に高まりたい

桑原武夫 日本文学研究の新しい動向と業績をほぼ知ることが出来たことを感謝する

近世概観 重友 毅

日本文学 高木市之助 研究法 史的概説

古代概観 久松潜一 神話 西郷信綱

古代歌謡 高木市之助 山田章一郎

物語小説 南波浩 日記隨筆 池田龜鑑

中世概観 風巻景次郎 小説隨筆 永積安明

中世和歌 荒木良雄 連歌 里井陸郎

謡曲狂言 里井陸郎 近世概観 重友 毅

近世小説 廣末保 歌舞伎 近藤忠義

俳諧 浅田善三郎 前期小説 近藤忠義

後期小説 猪野謙二 戯曲 山田精一

詩論 吉田積一 評論 小田切秀雄

現代小説 丸山静 大衆小説 高橋蘊一

新刊・近刊  
経済学史 出口勇藏編 定価五七〇〇円  
近代政治史 前芝確三編 定価五二八〇円  
日本経済史 竹中靖一著 定価三二四〇円  
社会思想史 本田喜代治編 定価三一〇六円  
人文地理学概要 村松繁樹・宮川善造 著 近刊  
米倉二郎・松井武敏 著 近刊

ル番 下条 276  
場 280  
馬場 807  
柳都 807  
中京 807  
都 807  
京 807  
都 807  
京 807  
都 807  
京 807  
都 807

京都・中京・柳都・馬場・下条

るような事態に達したのであるが、このような事態の出現こそ、ジョンソンの再建政策から急進派の再建政策への大

### 沔岐の考古学的調査 第三回

東亜考古学会では対馬にひきつづき、沔岐の考古学的調査を毎年夏休みを期して続行して来たが、本年も七月二十三日より八月十二日にわたり、第三年度目の調査が行われた。

水野清一教授を主査とし、多数の考古学者が参加したが、京都大学よりは有光教一助教授、樋口隆康講師、岡崎敬助手、高橋猪之介氏、川端真治、林巴奈夫、金関愨、各大学院学生の参加を見た。

本年度の調査の対象としては、田河町の原ノ辻弥生式遺跡、同町の妙泉寺古墳群、那賀村団分の鬼の巖屋古墳が選ばれた。

原ノ辻遺跡は一昨年その一部の調査を行い、貨泉の出土を見た注目すべき遺跡である。本年は遺跡の全貌を明らかにすることを目的として、大規模な発掘が行われた。その結果、西日本では珍しい堅穴住居址数ヶを発見したのである。これらの堅穴住居址は弥生式中期に属する。この中から多量の穀類が発見せられたこともまた注意をひく。本遺跡発見の土器は弥生式前期より土師器の時代にわたり、北九州における土器の変遷を継続的にたどりう

南北戦争後の南部再建政策の展開（山岸）

転換を導いた根本的原因であると考えられる。急進派の勝利、それは又北部産業資本の勝利を意味するものであつた。

るのみならず、これに混って相当数の所謂漢式土器が発見され、今後かかる種類の土器の内地における研究の重要性を示唆するものがある。他に重要な事実としては、鉄製農具のこの遺跡における顯著な普及を挙げることが出来る。

妙泉寺古墳群はすべて横穴式石室を有するものであり、現在では約八基が遺存し、その内の二基を清掃実測した。両者とも既に盗掘に遭っていたが、その内の一基において、石室上の封土内に陶質土器の一群を発見した。石室構築後の封土築造過程に行われた或種の儀礼の存在を推測せしめる資料として注目されるべき発見とせられるであろう。なお、調査の二古墳の石室は、それぞれ新旧の特色を示し、本古墳群内の時代的ズレを考えしめる。

鬼の巖屋古墳は本島最大の横穴式石室を有する所謂巨石古墳である。清掃実測が行われたが、こゝにおいても既に盗掘が行われており、見るべき遺物は発見されなかつた。ただ石室の構造が北九州におけるそれと甚だ似かよっている点に注意せられる。

周知のように、沔岐は対馬と共に、大陸交渉史上に占める位置は大きい。その考古学的事実が次第に明らかになって行くことは、期待されるところ大である。

えていることのほか、日本外史の叙述形式、史実、史観などにたいし鋭利な史眼をもつて批判していることであり、少くともわれわれがこんにち「日本外史」の欠点とみなしている点を、ゆくりなくも明確に指摘していることである。ここに従来の日本（中国）史学とフランス（西欧）史学との相違、区別をもみることができると思う。古来、中国史学の伝統は「史記」「漢書」にはじまり、いわゆる正史の叙述形式は「清史稿」にいたるまで連続としてその流れをくむ。ことに儒教の徳治主義を政教の正統としてからは、「資治通鑑」

によつて代表される教訓的歴史がその主流をなしたが、日本の史学・史観もまた中国の影響によつて、ほぼ同様の発展をとげて明治時代におよんだ。したがつて「日本外史」が中国人によつて一応肯定的な立場で受入れられたことはむしろ当然であり、これに反し、史実考証を中心とする発展的歴史に培われた西欧において、「日本外史」が中国なみに受入れられなかつたのも、これまた当然のことであろう。

### 若狭の油桐栽培の史料

今度若<sup>キ</sup>者、不量ニ桐切申候儀ニ、曲事之由、仰かけられ候条、種々御理申、殊更両庄為兩人と、色々御佗言申候へ共、無御分別候之間、則ありのまま桐数少も不置隠、持せ被参候上者、兩人之者共涯分在所中<sup>ヲ</sup>せんさく申、少も披葉迄のこさず被参候上者、聊偽申候者、諸神請<sup>ヒ</sup>之御置可蒙者也、仍如件、

天正拾七年二月拾九日

別 当（花押）

和備門尉（花押）

御賀尾浦 刀祿 百姓甲

資料 紹介

参

この文書は、この夏、京大國史・地理研究室が共同で行つた若狭の漁村調査の際、三方郡三方町字種子の大吉所蔵文書中に見出されたものである。文中の桐とは油桐のことである。この実からとつた桐油は、むかし主に燈用にされ、また紙に塗つて桐油紙を作つた。山腹を利用しうるので、耕地の少い村落では油桐栽培は相当有利であつたらしく、中世末より各地で栽培されたが、いまでは鳥取・千葉二県と若狭沿岸地方に限られている。この文書は、若狭における油桐栽培が天正年間まで遡りうることを示す貴重な史料である。

細井淳一(静岡大)「社会経済体制の進化

による農業経営形態の地理的分析——第二報——

日本地理学会大会 十月十(土)・十一(日)日

於山形大学

教室出身者並びに関係者からは次の如き発表が行われた。

公開講演

藤岡謙二郎「大都市域形成の二つのタイプ」

ブ

研究発表

浮田典良「日本の茶葉分布と宇治型茶業」

業

渡辺茂蔵「松ヶ岡開墾地の成立過程」

当麻成志「近郊山村の地域構造——第二報——」

報

西村陸男「地域設定についての一試案」

案

末尾至行「日本に於ける政治的意見の分布とその基礎」

分布とその基礎

宮川善造「地理的現象の現代性」

星野輝男「瀬戸内海大島の研究——第一報——」

一報

藪内芳彦「紀伊水道に於ける入漁の地理学的研究」

理学的研究

海野一隆「清代大運河漕運の地域的考察」

案

吉田敬市「朝鮮に於ける地理学の発達とその性格」

とその性格

浅井得一「満洲に於ける人口都市集中度と都市化率」

率と都市化率

京大者古学関係

梅原教授の渡欧

梅原教授はパリにおける国際東洋学会出席のため、九月九日羽田を出発された。学会終了後、イギリス・アメリカ等を巡られる。豫定である。

執筆者紹介

黒田俊男 京都大学大学院特別研究生

笠井倭人 京都大学大学院学生

山岸義夫 群馬大学講師

別技篤彦 神戸商科大学教授

石原道博 茨城大学講師

牧貞次郎 京都学芸大学講師

前川真次郎 京都大学助教

小葉田淳 京都大学教授

新入会員

川端真治 尼ヶ崎市水堂九九

木村省三 新潟県岩船郡村上町東町杉原

中島辰雄 大阪市旭区新森小路二ノ五五

金子和正 奈良県丹波市町天理教肥長詰所

学習院大学図書館

東京都豊島区目白二丁目

大阪外国語大学

大阪市天王寺区上本町八丁目

お断り

新しい会員名簿ができ上りましたので、本号とともに、皆様のお手許にお送りいたします。つきましては、甚だ恐縮でございますが、名簿の実費三十円を御予納の金額から差し引かせていただきます。(なお、会費未納の方は次の御送金の際名簿代をおそえ下さい) 本会の運営も漸く好転してまいりました。が、会計面の裏づけの薄さ、何卒御了承下さいますよう、お願いいたします。



# THE SHIRIN

or the

## JOURNAL OF HISTORY

---

Vol. XXXVI, NO. 4

OCT. 1953

---

### CONTENTS

#### Articles:

- Ikkosensha and Honjisuijaku in Kamakura Buddhism  
..... *T. Kuroda* (1)
- A Chronological Study of the Japanese Antiquity  
..... *W. Kasai* (25)
- The Reconstruction Policy after the Civil War in the  
United States..... *Y. Yamaguchi* (49)

#### Short Notices:

- A Study of Sea Trade among the Malaysians  
..... *A. Bekki* (68)
- Chinese Edition and French Translation of  
the Nihongaisi..... *M. Ishihara* (82)

#### Book Reviews & News

---

*Published*

*by*

THE SHIGAKU KENKYUKAI  
(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan